

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2023
JUNE

No. 133

Sat. 3rd June
Tokyo Opera City Series

No. 131

Sun. 4th June
Niigata Subscription Concert

No. 711

Sat. 24th June
Subscription Concert

No. 91

Sun 25th June
Kawasaki Subscription Concert

6



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶 ユベール・スダーン
正指揮者	原田慶太楼
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆ 上田 仁 ◆ 遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

コンサートマスター 小林杏成
グレブ・ニキティン

アシスタント・
コンサートマスター 田尻 順

会 長 澤田秀雄

理事長 岡崎哲也

副理事長 平澤 創

依田 巽

専務理事 阿部武彦 永山 治

池辺晋一郎 夏野 剛

伊藤美樹 南部靖之

大橋 博 福川伸次

庄司 薫 藤原 洋

竹中平蔵 増岡聡一郎

辻 敏

監 事 磯村文靖

寺西基之

評議員長 金山茂人

最高顧問

評議員 梅沢一彦 西村 朗

鷗海量明 星 久人

片山泰輔 山添 茂

加藤英輔

特別顧問 飯島延浩

草壁悟朗

福田紀彦

1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 小川敦子
- 立岡百合恵
- 土屋杏子
- 中村楓子
- 水谷有里
- 森岡ゆりあ
- 吉川万理
- 小山あずさ*

2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 坂井みどり
- 加藤まな
- 福留史紘
- 阿部真弓
- 河裾あずさ
- 鈴木浩司
- 竹田詩織
- 辻田薫り
- 堀谷しずか
- 渡辺裕子

Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村真紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 小西心興
- 鈴木まり奈
- 永井聖乃

Cellos

- ☆伊藤文嗣
- 笹 樹
- 川井真由美
- 内山剛博
- 蟹江慶行●
- 謝名元 民
- 樋口泰世
- 福岡茉莉子

Double Basses

- 助川 龍
- 北村一平
- 久松ちず
- 安田修平
- コーディ・
- ローズブーム
- 渡邊淳子

Flute

- 相澤政宏
- 竹山 愛*

Flutes & Piccolos

- 高野成之
- 濱崎麻里子

Oboes

- 荒 絵理子
- 浦脇健太

Oboe & English horn

最上峰行

Clarinets

- エマニュエル・ヌヴー
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子
- 小林利彰

Bassoons

- 福井 蔵
- 福士マリ子
- 坂井由佳
- 前関祐紀

Horns

- 上間善之
- 加藤智浩
- 阪本正彦
- 清根伸吾

Trumpets

- 佐藤友紀
- 澤田真人
- 野沢岳史●
- 松山 萌

Trombones

- 馬塚心輔
- 大馬直人
- 住川佳祐

Bass Trombone

藤井良太

Tuba

近藤陽一

Timpani & Percussions

- 清水 太
- 山村雄大
- 岡山芳史
- 綱川淳美
- 新澤義美

Librarians

林 知也
加藤幸子

Stage Managers

西岡理佐
山本 聡

楽団員

井伊 準 ◆

楽団長

廣岡克隆

編成局長

藤原 真

パーソネル・マネージャー

大和田浩明

楽団委員

相澤政宏 (議長)
清水泰明 (書記)
小西心興
清水 太
藤井良太
最上峰行

事務局長

辻 敏

事務局

市川明都
伊藤瑛海
小川博司
■尾木貴雄
桐原美砂
佐藤雄己
高瀬 緑
竹内裕子
長久保宏太郎
山田道子
□梶川純子
榎 日向*

名誉団友

深江泰輔 ◆
三木晴雄

団 友

天野佳和 佐々木真
新井 汎 篠崎 隆
安藤史子 菅野明彦
池田 隆 杉浦直基
石川晴依世 鈴木一輝
今村和弘 芹澤英雄
岩澤淳子 曾根敦子
上原正二 武田英昭
上原規照 田中英輔
上原未莉 千村雅信
内田彬雄 十亀正司
内田乃利子 豊山 悟
宇部 実 中塚和良
梅田 学 中塚博則
大隈雅人 中山 智
大塚正昭 西依智治
大慈康男 西脇秀治
大和ルイス 野村真澄
小川さえ子 馬場隆弘
狭野 昇 原田英保子
奥田史史 白野 泰
音川健二 ペンテ
加藤谷直美 ボーマン
笠原勝二 前田健一郎
甲藤さち 松崎里絵
加藤信吾 丸山正昭
金澤 茂 三浦正信
久保田一穂 宮原祐子
熊谷仁士 宮本直樹
黄原亮司 宮本 睦
小林照雄 森みさ子
小林亮子 諸橋健久
佐川聖二 渡辺 功
渡辺啓郎

【ハーブ寄贈：環境ステーション株式会社】

☆ソロ首席奏者 ●首席奏者 □客演首席奏者 ○フォアシュペーラー ●インスペクター

■本部長 □シニア・ディレクター *研究員・準事務局長 ◆故人

演奏会でのお願い Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

お手持ちのチケットは記載されている座席番号にのみ有効です。
座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



演奏中はお静かに

手荷物に付けている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご
配慮ください。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめく
る音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内
に響きます。

Please be silent during the performance.



開演前に携帯電話、時計のアラーム音、 電子機器等の電源はOFF

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は
必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and
all other noise-emitting electronic devices before the
performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い帽子や高さのある帽子は
脱いでご鑑賞ください。またリズムをとる行為も迷惑になりま
すのでおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way
which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



ホール内での録音・録画・ 許可のない写真撮影は禁止です

Photography, filming and recording are prohibited.



演奏中の飲食はご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は場内に響きますので、演奏中の
開封はご遠慮ください。

Refrain from eating and drinking during the performance.



補聴器の確認を

補聴器をご使用のお客様は、ハウリングの発生を避けるために
きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check
that your device is suitably set before the performance
begins.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。途中入場がある場
合は、係員の指示に従ってください。

You will not be permitted to enter the concert hall during a
performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from
any coughing or sneezing.



曲の余韻も演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance.
Please hold your applause until the actual end of the performance.

カーテンコールの 撮影について

定期演奏会・川崎定期演奏会・東京オペラシティシリー
ズ・特別演奏会にて終演後のカーテンコールの撮影が可
能になりました。撮影は自席にご着席のまま、周りのお
客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

◎前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません

◎SNS等に掲載する際は、
ほかのお客様の映り込みにご注意ください

◎フラッシュの使用、目線より
高い位置での撮影はご遠慮ください

◎スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、
自撮り棒の使用はご遠慮ください

6/3 SAT. 4 SUN.

東京オペラシティシリーズ 第133回

2023年6月3日(土) 14:00 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.133

Sat. 3rd. June 2023, 14:00 Tokyo Opera City Concert Hall

新潟定期演奏会 第131回

2023年6月4日(日) 17:00 “りゅーとびあ”コンサートホール

Niigata Subscription Concert No.131

Sun. 4th. June 2023, 17:00 Ryutopia Concert Hall

井上 道義 [指揮]
上野 通明 [チェロ]
グレブ・ニキティン [コンサートマスター]Michiyoshi Inoue, Conductor
Michiaki Ueno, Cello
Gleb Nikitin, Concertmaster

武満徹:3つの映画音楽より(8')

第1曲 映画『ホゼー・トレス』から「休息と訓練の音楽」
第3曲 映画『他人の顔』から「ワルツ」

T.Takemitsu: Three Film Scores (8')

No.1 Jose Torres “Music of Training and Rest”
No.3 Face of Another “Waltz”

井上道義:交響詩「鏡の眼」(16')

M.Inoue: Symphonic poem
“The eyes of The mirror”(16')

休憩(20')

Intermission(20')

エルガー:チェロ協奏曲 ホ短調 op.85(30')

I.アダージョ - モデラート
II.レント - アレグロ・モルト
III.アダージョ
IV.アレグロ - モデラート - アレグロ・マ・ノン・トロツポ

E.Elger: Cello Concerto in E minor op.85 (30')

I. Adagio - Moderato
II. Lento - Allegro molto
III. Adagio
IV. Allegro - Moderato - Allegro, ma non troppo

エルガー:南国にて op.50(20')

E.Elger: In the South (Alassio) op.50(20')

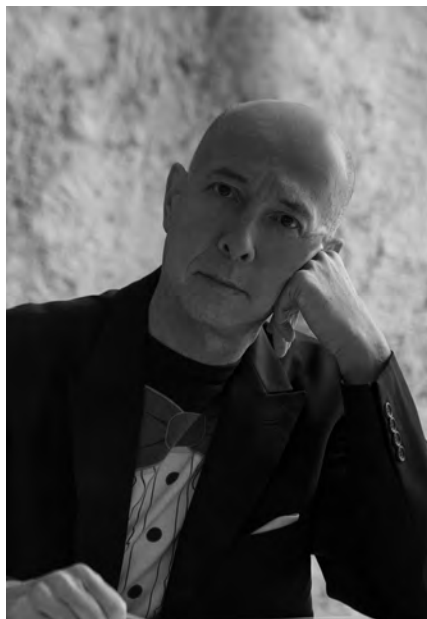
- 主催/公益財団法人東京交響楽団(6/3)、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団(6/4)
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)|独立行政法人日本芸術文化振興会(6/3)
文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会(6/4)

新潟定期演奏会は、新潟市からの補助金の交付を受けて実施しています。

楽曲解説はP.06をご覧ください



6/3 SAT. 4 SUN.



©Yuriko Takagi

Michiyoshi Inoue

Conductor

井上道義 [指揮]

1946年東京生まれ。桐朋学園大学卒業。ニュージーランド国立交響楽団首席客演指揮者、新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、京都市交響楽団音楽監督兼常任指揮者、大阪フィルハーモニー交響楽団首席指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督を歴任。2007年ショスタコヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクトを企画立案。2014年4月病に倒れるが、同年10月に復帰を遂げる。近年では、全国共同制作オペラ「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」、大阪国際フェスティバル「バーンスタイン：ミサ」、井上道義：A Way from Surrender ～降福からの道～等を、いずれも総監督として率い既成概念にとらわれない唯一無二の舞台を作り上げている。2018年「大阪府文化賞」「大阪文化祭賞」「音楽クリティック・クラブ賞」、2019年NHK交響楽団より「有馬賞」、2023年「第54回サントリー音楽賞」を受賞。オーケストラ・アンサンブル金沢桂冠指揮者。2024年12月にて指揮活動の引退を公表している。

Born in Tokyo in 1946, Michiyoshi Inoue studied at Toho Gakuen School of Music under the late Hideo Saito. In 2007, he achieved great success in Tokyo both as the conductor and project leader of his Shostakovich symphony cycle concert series with five Russian and Japanese orchestras. Inoue has been the uncompromising general director of unique, unconventional stage projects such as the new productions of Mozart "Le Nozze di Figaro: What The Gardener Saw" staged by Hideki Noda (2015), as well as the world premiere of Inoue's autobiographic musical opera "A Way from Surrender" staged by himself (2023). Inoue has been awarded Arima Prize from the NHK Symphony Orchestra (2019) as well as 54th Suntory Music Award (2023).

Currently the Honorary Conductor of the Orchestra Ensemble Kanazawa, Inoue has announced his plan to retire as conductor in December 2024.



©Anne Laure-Lechat

Michiaki Ueno

Cello

上野通明 [チェロ]

2021年ジュネーヴ国際音楽コンクール・チェロ部門日本人初の優勝、あわせて3つの特別賞受賞。

パラグアイで生まれ、幼少期をバルセロナ(スペイン)で過ごす。第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール、第6回ルーマニア国際音楽コンクール、第21回ヨハネス・ブラームス国際コンクール優勝など国際舞台で次々と活躍し話題となる。これまでにワルシャワ・フィル、ロシア国立響、スイス・ロマンド管、KBS響、都響、読売日本響、東響、新日本フィル等国内外の主要オーケストラと共演。出光音楽賞、ホテルオークラ音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞などを受賞。令和3年度文化庁長官表彰を受ける。

桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース全額免除特待生として毛利伯郎に師事し、P.ウィスパルウェイに招かれ19歳で渡独。現在エリザベート王妃音楽院にてゲーリー・ホフマンにも師事。使用楽器は1758年製P.A.Testore(宗次コレクション)、弓は匿名のコレクターよりF.Tourteをそれぞれ貸与とされている。

Michiaki Ueno is a cellist praised for his unique yet natural musicality and superlative technique.

He has won many awards, including the 1st prizes in International Tchaikovsky Competition for Young Musicians in 2009 and International Johannes Brahms Competition in 2014. In 2021, he won the 1st prize in Geneva International Music Competition along with three special awards, including Young Audience Prize. As a soloist, Michiaki has performed with various orchestras, including Orchestre de la Suisse Romande and Warsaw Philharmonic, and Yomiuri Nippon Symphony. He has been also invited to numerous music festivals worldwide, including Pacific Music Festival and Montpellier Music Festival.

Michiaki is also a chamber musician, with artists such as Jean-Guihen Queyras, Jose Gallardo, and Akiko Suwanai. He has received support from several Foundations including the Ezoë Memorial Recruit Foundation and the Rohm Music Foundation. He plays a P. A. Testore cello on loan from the Munetsugu Collection.

6/3 SAT. 4 SUN.

武満 徹(1930～1996)

3つの映画音楽より

武満徹は現代音楽の作曲家として常に最前線で活躍しながら、生涯で約100本の映画のために音楽を書いた。その数も驚異的だが、映画の分野における功績も大きい。たんに美しいメロディーを書くだけでなく、どの音をどのタイミングで入れ、どこで切るか。あるいは音を入れないか。脚本を深く読み、音楽・音響効果を含めたあらゆる音にたいして演出の域にまで達する緻密な設計を試みたのである。評価は晩年になるにつれますます高くなり、1995年にスイスで開かれた映画の音楽を特集する「シネミュージック・フェスティバル」に、テーマ作曲家として招待された。その時、武満は自身の手がけた作品の中から勅使河原宏監督の『ホゼー・トレス』(1959年)と『他人の顔』(1966年)、今村昌平監督の『黒い雨』(1989年)の3作品を選び、タイトルをつけて演奏会用の組曲とした。それが《3つの映画音楽》である。今回は勅使河原作品による〈訓練と休息の音楽〉と〈ワルツ〉が演奏される。

〈訓練と休息の音楽〉は、プエルトリコ出身のボクサー、ホゼー・トレスを追ったドキュメンタリー映画のために書かれた。舞台はニューヨーク、ジムでサンドバックを叩き、リズムカルに縄跳びをする姿をカメラはとらえる。武満はそのリズムと研ぎ澄まされた雰囲気をも低弦のピチカートとジャズで使われる不協和音を用いて体現した。一方で、リングを降りて休み、恋人とすずすシーンには優しさに満ちた音楽を書き、映像に情緒を加えた。

〈ワルツ〉は、勅使河原監督、安部公房の原作・脚本、武満の音楽という前衛コンビによる『他人の顔』の主題曲である。映画は、都会に生きる男が事故で頭部に傷を負い、苦悶の末に手術で他人の顔を得て自由に生きようとするが逆に精神的に追い詰められてゆくシリアスものである。そこに武満は〈ワルツ〉を書いた。悲しくも美しい旋律とワルツのリズムは、運命に翻弄される人間をいわば俯瞰する視点で書かれており、映画に奥行きを生み出した。

小野光子 Text by Mitsuko Ono

作曲：1994～95年編曲

初演：1995年3月9日スイス・グシュタード「シネミュージック・フェスティバル武満徹特集」にて、ウィリアム・ポートン指揮、イングリッシュ・ストリング・オーケストラ

編成：弦5部

井上道義(1946～)

交響詩「鏡の眼」

「鏡の眼」は作曲してからもう20年以上が経つ。コンタクトレンズのメニコンの社長から眼科学会記念イベントに何か書いてくれと委嘱されたのがきっかけだ。それ以前にJAL主催「金閣寺音舞台」に僕は、野村萬斎、東儀秀樹、ニューヨークピアノアンサンブル、クロノスカルテットをまとめる演出を与えられ、その上それらをまとめあげる部分の音楽の作曲まで頼まれ、震えながらもやってみたら意外と良い結果が出たことから、僕はそのころには学生時代に挫折していた作曲を何がなんでもやってみようと思っていたので、その委嘱をひとつ返事で、しかし心底はプロ作曲家達に馬鹿にされるだろうとビビりながら作った曲だ。内容は自分でもはっきり文章では表現できないが、「孤独感」と「寂寥感」、それに対してヒステリックに襲ってくる躁状態の酔っ払いのとっくに亡くなった父親の幻影、又は異和感ばかり感じる日本社会を引っ掛かりに、…鏡の向こうからから見つめる左右逆の指揮者という自分…の葛藤というべきもの。初演の時には「高齢出産の私…うれしはずかしだわ」みたいに羞恥心を強く感じたことを覚えています。私は指揮者なので生きる環境として、それぞれ深く長く付き合ってきた世界のクラシック作曲家たちの特許と言えるような方法が自分の曲に現れていることを恥ずかしく思いません。それは井上自身の生きている時代そのもので、日々、一緒に演奏する奏者との対話材料でもあるからです。そこではいわゆる日本＝和風とか、伝統＝邦楽のような、偽の祭儀用衣装は着てなかったと思います。あの頃の私は、まだ本格的にショスタコーヴィチの世界に入る前で、京響、東響、新日とマーラーまみれになっていた頃です。その後、『メモリーコンクリート』という30分ほどの曲を書き、今年1月には父母の時代へのオマージュ・オペラ舞台作品をようやく仕上げ上演しました。とんでもなく牛歩な作曲家の自分ですが、早熟だった指揮者としての自分と対峙してかなり人々の心に衝撃をもたらす作品になったようですが、この鏡の眼こそがその原点なのです。どうか笑ってください。

井上道義 Text by Michiyoshi Inoue

作曲：2001年

初演：2001年10月11日京都、作曲家自身の指揮、京都市交響楽団

編成：フルート3(ピッコロ持替3)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、バス・チューバ1、ティンパニ、中太鼓、小太鼓、シンバル、タンバリン、ラチェット、タムタム、チャンチキ、アンビル、グロックンシュピール、シロフォン、ハープ1、ピアノ(チェレスタ持替)、弦5部

6/3 SAT. 4 SUN.

エドワード・エルガー (1857～1934)

チェロ協奏曲 ホ短調 op.85

ルネサンス時代にはバード、バロック時代には天才パーセルが活躍したイギリスは、それ以降もロンドンを中心に、活発な演奏活動は行われていたものの（ヘンデルもハイドンもメンデルスゾーンも、イギリスでの活動を抜きに語ることはできない）、なかなか重要な作曲家を輩出できないでいた。そのなかでパーセル以来のイギリスの大作曲家として、エドワード・エルガーは、母国では現在でも国民的な尊敬を持って語られる。家庭的な愛情にあふれた《愛の挨拶》や、豪華でおごそかな行進曲《威風堂々》第1番は、誰もが耳にしたことのあるポピュラーな名曲であろう。

エルガーの本格的な創作生活が始まったのは、40代に入ってからのことだった。1899年の《謎（エニグマ）》で名声を確立したエルガーは、《威風堂々》やヴァイオリン協奏曲などの名曲を次々と世に送り出し、第一次世界大戦によって一時は後退したものの、1918年夏には創作意欲が回復。1919年初頭、ウェスト・サセックス州にある穏やかな自然に囲まれた山荘で、チェロ協奏曲は完成された。

チェロ協奏曲はエルガーの代表作であるとともに、最後の傑作となった。翌1920年の、エルガーを献身的に支えた妻アリスの死は同時に、作曲家エルガーのなかの何かを奪い去ったのだろう。エルガーはアリスの死後、もはや大曲を書き進めることができなかった。作品の全体を覆う陰りのある雰囲気には、愛する者が失われていくことへの、エルガーの悲しみに満ちた予感が映し出されていると言われる。1919年の初演はうまく行かなかったものの、すぐ後に行われたベアトリス・ハリスンによる再演が成功し、今日ではエルガーの本作品は、チェロ協奏曲を代表する名作のひとつとなっている。

曲はソロ協奏曲には珍しい、緩・急・緩・急の4楽章構成。**第1楽章**は自由なソナタ形式により、冒頭の独奏チェロの暗く情熱的なレチタティーヴォと、それに続いてヴィオラで提示される悲しく美しいメロディーが、この作品の基調を決定する。**第2楽章**は続けて演奏され、次第にスケルツォ風の生き生きとした音楽となる。**第3楽章**では、静かで優しいチェロの歌が聴かれる。**第4楽章**は活気あるロンド。しかしながら最後は徐々にテンポを落とし、哀愁に満ちたチェロの調べのなかで、第3楽章と冒頭のレチタティーヴォを回想して終わる。

石川亮子 Text by Ryoko Ishikawa

作曲：1919年

初演：1919年10月26日ロンドン、フェリックス・サルモンド独奏、作曲家自身の指揮

編成：独奏チェロ、フルート2（ピッコロ持替1）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、バス・チューバ1、ティンパニ、弦5部

エドワード・エルガー (1857 ~ 1934)

南国にて op.50

メンデルスゾーンの交響曲「イタリア」、そしてチャイコフスキーの《イタリア奇想曲》。アルプスより北に生まれた作曲家がアルプスの南、すなわちイタリアを旅した印象から書いた音楽は、いつも明るい躍動感にあふれている。フランス・ニースとイタリア・ジェノヴァの間に位置する、地中海の美しい港町アラッシオ。序曲《南国にて》もまた、エルガーのアラッシオ滞在から生まれた作品で、わきあがる歓喜のような音楽とともに始まる。

楽器商の家に生まれ、地元ウースターの作曲家として活動していたエルガーの人生に転機をもたらしたのは、1889年に結婚した陸軍少将の娘で8歳年上の妻アリスと、1897年に即位60周年を迎えたヴィクトリア女王であったと言われる。アリスの内助の功に支えられて、女王お気に入り作曲家となったエルガーは、1899年の《謎(エニグマ)》、1901年の《威風堂々》第1番等の成功で、イギリスの国民的作曲家としての地位を確立。序曲《南国にて》は、1903年末から翌年にかけて過ごしたアラッシオで作曲が進められ、帰国後の2月21日に完成。初演は1904年3月、ロンドンで3日間にわたって開催された「エルガー音楽祭」の最終日に、エルガー自身の指揮によって行われた。

曲は、演奏会用序曲で伝統的に用いられるソナタ形式によりながら、実質的には交響詩として、イタリアの風景や歴史を描き出していく。冒頭、R.シュトラウスの交響詩を思わせる勢いのある音楽から始まり、それを第1主題として、アラッシオの山にある小さな村モーリオをイメージしたメロディーが続く。第2主題もモーリオの田園風景を思わせる、のどかなもの。展開部は2つの音楽により、前半では「ローマ人の主題」が古代ローマの栄光と戦いの歴史を物語る。後半の独奏ヴィオラによって歌われる「カント・ポポラーレ」の旋律は、民謡風にみせかけたエルガーのオリジナル。再現部は自由な展開を含みながら、最後は第1主題によるコーダによって華やかに締めくくられる。

石川亮子 Text by Ryoko Ishikawa

作曲：1904年

初演：1904年3月16日ロンドン、コヴェント・ガーデンにて、作曲家自身の指揮、ハレ管弦楽団

編成：フルート3(ピッコロ持替1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、バス・チューバ1、ティンパニ、太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、グロックンシュピール、ハーブ2、弦5部

6/24 SAT. 25 SUN.

第711回 定期演奏会

2023年6月24日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.711

Sat. 24th. June 2023, 18:00 Suntory Hall

川崎定期演奏会 第91回

2023年6月25日(日) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

Kawasaki Subscription Concert No.91

Sun. 25th. June 2023, 14:00 Muza Kawasaki Symphony Hall

ミケーレ・マリオッティ [指揮]
萩原 麻未 [ピアノ]
グレブ・ニキティン [コンサートマスター]

Michele Mariotti, Conductor
Mami Hagiwara, Piano
Gleb Nikitin, Concertmaster

モーツァルト：ピアノ協奏曲 第21番
ハ長調 K.467 (29')

I.アレグロ・マエストーソ
II.アンダンテ
III.アレグロ・ヴィヴァーチェ・アッサイ

休憩(20')

W.A.Mozart : Piano Concerto No.21
in C major K.467 (29')

I. Allegro maestoso
II. Andante
III. Allegro vivace assai

Intermission(20')

シューベルト：交響曲 第8番 ハ長調 D944
「ザ・グレート」(48')

I.アンダンテ - アレグロ・マ・ノン・トロッポ
II.アンダンテ・コン・モート
III.スケルツォ：アレグロ・ヴィヴァーチェ
IV.フィナーレ：アレグロ・ヴィヴァーチ

F.Schubert : Symphony No.8 in C major
D944 "The Great" (48')

I. Andante - Allegro ma non troppo
II. Andante con moto
III. Scherzo. Allegro vivace
IV. Finale. Allegro vivace

- 主催／公益財団法人東京交響楽団
- 助成／文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業（創造団体支援）| 独立行政法人日本芸術文化振興会
- 後援／川崎市、「音楽のまち・かわさき」推進協議会（6/25）
- 協力／ミューザ川崎シンフォニーホール（川崎市文化財団グループ）（6/25）

楽曲解説はP.14をご覧ください



MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

6/24 SAT. 25 SUN.



Michele Mariotti

Conductor

ミケーレ・
マリオッティ
[指揮]

イタリア・ペーザロ生まれ。2005年にサレルノでオペラ・デビューし、2008年にはボローニャ歌劇場の首席指揮者、その後音楽監督を務めた。2011年に同歌劇場と日本公演を行って以来、今回が2度目の来日となる。ダニエーレ・ルスティオーニ、アンドレア・バッティストーニとともに「イタリア若手指揮者三羽がらす」と称されている。

スカラ座、NYメトロポリタン歌劇場、ロイヤル・オペラ・ハウス、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、サン・カルロ劇場、エクサン・プロヴァンス音楽祭のほか、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランス国立管、ミュンヘン響、RAI国立響、デンマーク国立響、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、オランダ放送フィルハーモニー管、ケルン・ギュルツェニヒ管、スカラ座フィルハーモニカ管、RTÉ国立響など主要なオペラハウスや音楽祭に出演。2016年、イタリアの批評家賞であるプレミオ・アッビアーティ賞(最優秀指揮者賞)を受賞。

2022年11月ローマ歌劇場の音楽監督に就任した。

Michele Mariotti is the Musical Director of the Teatro dell' Opera di Roma. Born in Pesaro, he was nominated Principal Conductor of Bologna's Orchestra del Teatro Comunale (2008-14) and Musical Director of the Teatro Comunale di Bologna (2015-18).

He is invited by the most important opera houses and festivals: Teatro alla Scala, NY Met, London ROH, Opéra de Paris, Wiener Staatsoper, Salzburg Festival, Teatro San Carlo, Aix-en-Provence Festival, and has been on the podium of Gewandhaus Orchestra, Orchestre National de France, Münchner Symphoniker, OSN Rai, Danish National Symphony Orchestra, Orchestra dell' Accademia Nazionale di Santa Cecilia, Nederlands Philharmonisch Orkest, Gürzenich Orchester Köln, Filarmonica della Scala, RTÉ National Symphony Orchestra, to name a few. He was awarded Premio Abbiati as 2016 Best Conductor.



©Akira Muto

Mami Hagiwara

Piano

萩原麻未 [ピアノ]

2010年第65回ジュネーヴ国際コンクール（ピアノ部門）において、日本人として初めて優勝。年によって1位を出さないこの伝統あるコンクールでの8年ぶりの優勝となった。

第27回パルマドーロ国際コンクールにて史上最年少の13歳で第1位。

広島音楽高等学校を卒業後、文化庁海外新進芸術家派遣員としてフランスに留学。パリ国立高等音楽院及び同音楽院修士課程、パリ地方音楽院室内楽科、モーツァルテウム音楽院を卒業。

現在、日本やフランスをはじめ、スイス、ドイツ、イタリア、ベネズエラ、ベトナムなどでソリスト、室内楽奏者として演奏活動を行っているほか世界の音楽祭にも多数出演している。

近年では広島市民賞、第13回ホテルオークラ音楽賞、第22回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、第22回出光音楽賞、文化庁長官表彰（国際芸術部門）、第46回東燃ゼネラル音楽賞（奨励賞）など多数受賞。現在東京藝術大学常勤講師として後進の指導にも力を注いでいる。

Mami Hagiwara garnered attention as a rising pianist after becoming the first Japanese national to win the 65th Geneva International Music Competition in 2010. This prestigious competition does not award first prize every year, and Mami's victory attracted attention in various circles, as first place had not been awarded in eight years.

As for her international career, she has been invited to premier venues and orchestras in Europe and Asia, such as Orchestre de Suisse Romande, SWR Sinfonieorchester and La Roque d' Anthéron International Piano Festival.

Born in Hiroshima, Hagiwara began playing piano at the age of five. She later studied with Jacques Rouvier at Conservatoire de Paris.

6/24 SAT. 25 SUN.

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756 ~ 1791)

ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 K.467

1781年、バイエルン選帝侯の依頼によるオペラ・セリア《イドメネオ》の初演を成功させたモーツァルトは、自信をつけてウィーンへ赴いた。主君であるザルツブルク大司教からの呼び出しによるものであったが、結果的にモーツァルトはこの年、ザルツブルクの職を辞し、フリーの音楽家としてウィーンに定住することとなる。ウィーンでクラヴィーア奏者として成功を収めたモーツァルトは着実に実績を重ね、とりわけ1784年以降、自身の企画・演奏による予約演奏会や、四旬節・待降節を利用した劇場演奏会で披露するクラヴィーア協奏曲を次々と作曲していく。モーツァルトのキャリア上もっとも輝かしい時期の始まりである。

《ピアノ協奏曲第21番》は、こうしたモーツァルト主催の演奏会で披露する演目として作曲され、1785年の四旬節、3月10日にブルク劇場で初演された。この1ヶ月前には、モーツァルト初の短調によるピアノ協奏曲、第20番(二短調K.466)が大きな反響を呼んでおり、その記憶が新しいなか、爽やかなハ長調による協奏曲を作曲したところに、企画者としてのモーツァルトのバランス感覚がうかがえる。

第1楽章 アレグロ・マエストーソ ハ長調 4分の4拍子

曲を開始するオーケストラの総奏部分では、弦楽器が奏でる第1主題に管楽器群が合いの手を入れ、祝祭的に始まる。管楽器の独奏的な動きが協奏交響曲のような楽しみを与えれば、モーツァルトが弾き振りしたクラヴィーア・パートも、独奏とオーケストラの間を自在に行き来する。オーケストラによる第1主題を装飾しながらさりげなく登場するその独奏パートは、自然と主役へと交代し、ト短調の印象的な楽句を挟んだのち、柔らかな第2主題をト長調で優しく奏でて木管楽器に受け渡す。その後展開部を挟んで再現部となる。

第2楽章 アンダンテ ハ長調 2分の2拍子

弦楽器の刻みに乗って、旋律は大きな2拍子(アラ・ブレーヴェ)で歌うように奏でられる。終始穏やかな曲調で、短調への一時的な転調が美しい陰影をつける。

第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ・アツサイ ハ長調 4分の2拍子

独奏とオーケストラの掛け合いが楽しい快活なロンドである。

安川智子 Text by Tomoko Yasukawa

作曲: 1785年3月9日完成

初演: 1785年3月10日ウィーン、ブルク劇場、作曲家自身による独奏

編成: 独奏ピアノ、フルート1、オーボエ2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦5部

フランツ・シューベルト(1797 ~ 1828)

交響曲 第8番 ハ長調 D944「ザ・グレイト」

現在演奏されているシューベルトの8曲の交響曲のうち、最後に位置するハ長調の交響曲第8番は、同じくハ長調の交響曲第6番と区別して「グレイト(大きなハ長調交響曲)」と呼ばれる。従来この作品はシューベルトの最晩年、1828年の作品とされていたが、近年では1825年から26年に作曲されたとする説が有力である。

1824年5月7日には、ベートーヴェンの《交響曲第9番「合唱つき」》がウィーンで初演されている。直前の3月31日付けの手紙の中でシューベルトはこの「ニュース」に言及している。あたかもベートーヴェンの後を引き継がんとばかりに「グレイト」の終楽章には、ベートーヴェン《第九》の「歓喜の歌」が引用されている。

1824年はシューベルトにとって、室内楽の年でもあった。管弦楽のための八重奏曲(D803)や、弦楽四重奏「ロザムンデ」(D804)と「死と乙女」(D810)を完成させている。「死と乙女」に象徴されるように、リート(ドイツ語歌曲)の作曲で習得した旋律美と転調の技術が室内楽へと転換され、さらに彼はそれを「大きな交響曲」への道につなげようとしていた(前出の手紙より)。大規模な構造をもつ「グレイト」も、根底には歌の旋律と室内楽の様式が横たわっている。

第1楽章冒頭のホルン独奏による序章主題、第2楽章のオーボエ独奏によるアイロニーに満ちた主題、第3楽章の中間部トリオで聴かれる舞曲主題、そして第4楽章には「歓喜の歌」がある。これらの豊かな楽想に、弦楽四重奏曲で培った対位法の技術が重ねられ、ソナタ形式の枠組みも大きく拡大される。1828年には「グレイト」と同じハ長調の《「大」弦楽五重奏曲》(D956)が作曲され、大胆な和声使いで「グレイト」の世界を更に新しい時代へと一歩進めている。なお「グレイト」はシューベルトの兄フェルナンドのところにあった手稿譜をロベルト・シューマンが見つけ、1839年にメンデルスゾーンの指揮で初めて演奏された。メンデルスゾーンは1829年にバッハの《マタイ受難曲》を復活演奏したばかりであった。一方《大弦楽五重奏》の真価を見出したのは、ヨハネス・ブラームスである。古典派からドイツ・ロマン派へのバトンは、シューベルトを媒介に確実に受け渡されたのである。

安川智子 Text by Tomoko Yasukawa

作曲: 1825 ~ 26年

初演: 1839年3月21日ライプツィヒ、フェリックス・メンデルスゾーン指揮、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団

編成: フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

ミケレ・マリオッティが 世界から注目される理由

香原斗志（音楽評論家）

©Michele Borzoni TerraProject

つかみとって再現する天才に恵まれ

待ち焦がれていた日がようやく訪れる。ミケレ・マリオッティが東京交響楽団を指揮する。2020年12月に定期演奏会へ出演する予定だったが来日できず、コロナ禍の厳しい状況下ではあったが、肩を落としたものだった。なにを隠そう、マリオッティは目下、私がいちばん好きな指揮者だから。

数年前、イタリアでインタビューした際、日本のオーケストラは指揮しないのか尋ねると、いくつか話はあって予定が合わなかったが、タイミング次第では指揮したい、と話していた。いったん流れながら、リベンジがなることをよろこびたい。

マリオッティが指揮する音楽をはじめて聴いたのは2010年8月、イタリア中部のペーザロにおけるロッシーニ・オペラ・フェスティヴァルで、《シジスモンド》というロッシーニ初期のオペラ・セリア（正歌劇）だった。じつは、私は少しも期待していなかったが、それには理由があった。当時、音楽祭の総裁はミケレの父、ジャンフランコ・マリオッティ氏だった。私は情実人事がまかり通っていると思い込んだのである。

ところが聴いて驚いた。徹頭徹尾、音楽が息づいていた。テンポは変化を繰り返し、その絶妙な緩急は、スコアには明記されていない作曲家の感性と見事に照応しているのかもしれない。興が乗って曲を書き進める作曲家の息遣いや鼓動が表現されているかのように生き活きとし、細部にまで神経が行き届いている。

2015年に同じフェスティヴァルで聴いた《湖上の美人》では、湖水や水蒸気が存在が感じられたので驚き、本人に聞くと「この音楽のなかには水が存在し、波がうねるような状態にもなる。それを表現しようとしている」と語った。スコアを読み込み、台本を研究し、作曲家の訴えを深いところでつかみとる。しかし、才能がなければ、つかみとったものを再現できないが、マリオッティにはできる。

曲に内在する生命を引き出す

ペーザロで育ち、幼少期から夏は音楽祭の会場ですごしてきたというマリオッティ。南伊ペスカーラの音楽院でドナート・レンゼッティに、続いてペーザロの音楽院で指揮を学んだ。その後、ダニエレ・ガッティの後任として、20代でポローニャ歌劇場の首席指

揮者、続いて音楽監督のポストを得た。イタリア以外で本格的に学んだ経験はなく、「音楽への情熱はペーザロで生まれ、キャリアはボローニャで築き上げられた」と語る。

だから、マリオッティが指揮する音楽に宿る圧倒的な生命力は、特別な学びの成果というより、天才が自然に引き出されたものではないかと感じる。

たとえばヴェルディのオペラ。2018年、トリノ王立劇場で《第一次十字軍のロンバルディア人》という初期の作品を聴いたが、未熟だといわれるヴェルディの若書きのオーケストレーションが、どれだけ豊かな表情を宿したことか。前奏からロマン主義的な情趣がみなぎって、旋律にも一音一音にも品位があり、強弱が適切につけられ、それぞれの楽器の音が際立ったうえで複雑に織り上げられている。結果として、力強さも情感も音楽の奥底から湧き上がってきた。

マリオッティは「いつもスコアに書かれているとおりに演奏しよう」と語り、冷静で恣意を排除し、前のめりになることがない。すでに存在する曲の姿は「そうあるべきものだ」と考え、曲に内在する生命を引き出す。

もっとも、書かれたとおりに演奏するだけでは音楽に表情が生まれず、生命も引き出せない。マリオッティは作曲家が、そのオーケストレーションを通じてどんなドラマを構築したかったのか、作曲された当時、それをどう表現するのが一般的だったのか、徹底研究して音楽を構築する。だが、音楽がもつ生命があのように再現されるためには、研究は不可欠だが天才も必要である。

時代に通底する空気感を引き出す

事情はもちろん、管弦楽曲を指揮するときも変わらない。曲に真摯に向き合った結果、時代精神を浮上させ、そのなかに作曲家の魂を再現する、と言ったら大げさに聞こえるだろう。

トリノでシューベルトの交響曲第4番《悲劇的》を聴いて、この作品がロッシェニのオペラ・ブッフア《ラ・チェネレントラ》と同じ年に完成したことを強く意識させられた。調性も《悲劇的》という題名もブッフアの世界とは縁遠いようで、ロマン主義の萌芽が感じられる点も、軽やかなリズム感も、ときに愉悦感さえ覚えるクレッシェンドも、同じ時代に産み落とされた音楽であることを強く感じさせられた。

誤解がないように断っておくと、似た音楽に聴こえたのではない。描かれているのはまったく違う世界であって、見事なシューベルトを聴いた満足感の底で、ロッシェニとの共通点、すなわち同じ時代に通底する語法や空気感を強く感じたのである。

マリオッティの指揮する音楽は、いつも精妙で、息づいている。その音楽が誕生したときの生々しい息づかいが宿っている。昨年、ローマ歌劇場の音楽監督に就任したが、それ以前から世界が注目している。その理由は明らかである。

同じシューベルトでも交響曲第8番「グレイト」はどう聴こえるか。また、マリオッティが「一番好きな作曲家」というモーツァルトは……。この演奏会が語り草になることはまちがいないと、私は信じて疑わない。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N.Ikegami

ご芳名（敬称略）

法人
会
員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
学校法人創志学園
株式会社ティーワイ リミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ

ゴールド会員

株式会社あ佳音
株式会社青山メインランド
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
株式会社すかいらーくホールディングス
社会医療法人財団石心会
セントラル短資FX株式会社
玉川学園・玉川大学
玉の肌石鹸株式会社
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
本田技研工業株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティス ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
有限会社青史堂印刷
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
ニッシンエレクトロ株式会社
富士フィルムビジネス
イノベーションジャンプ株式会社神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポーター会員



©NIkegami

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございました(5月20日現在、五十音順)。

小畑 嘉文
船井 美穂
■か
甲斐 幸士
海藤 慶司
柿沼 威司
方波 見和雄
片山 千栄
葛城 伸一
加藤 憲司
加藤 里加子
川口 善行
川野 安子
河村 陽子
菅野 広和
菊田 海雅
北野 真子
北村 真子
木下 泰子
木下 亮平
■根 弘篤
木村 好一
木村 強
木村 富士子
木村 幸男
木村 幸子
藤原 有子
栗原 潔
玄間 美幸
小泉 美博
小泉 弥生
小泉 好士
好士 稔子
河野 太
高山 美恵子
国府 里美
国府 保周
小坂部 恵子
古平 一雄
小西 淳
小林 恭二
小林 宏州
小林 浩
小林 圭
小近 圭志
小近 諒
近内 光
近内 友史
後藤 聡
後藤 裕二
■さ
齋木 一宏
斎藤 爽子
齋藤 ひろ子
齋藤 博
齋藤 将隆
齋藤 有司
酒井 典子
坂本 夕カ

坂本 宗男
佐川 美お
前刀 慎明
佐々木 紀博
佐々木 通博
佐々木 基
佐藤 謙
佐藤 幸子
佐藤 勝
佐藤 美和子
重成 瞳
成野 俊郎
野重 恒夫
松戸 雅也
篠田 一朗
柴崎 晴雄
柴川 俊也
嶋谷 朋子
志村 明崇
庄司 一彦
白石 大幸
城智 和
澤田 忠史
杉山 重明
杉山 慎二
合啓 啓治
鈴木 孝治
鈴木 美和
清木 達美
清木 名美
■関 翔太
■た あずみ
高木 亜希子
高木 敏和
高木 晴彦
高木 洋二
高野 洋也
高橋 勝弥
高橋 美穂
高橋 有一
高橋 ユリコ
高松 則雄
高森 洋男
竹内 聖子
竹内 真也
竹内 竜太
武尾 和彦
武田 裕大
武田 克彦
田代 雅春
忠 幹

多田 三香
立花 代雄
田中 敬二
田邊 浩司
田川 香
谷川 万紀
谷原 守
種田 正浩
井 玲子
■津 淳
津 直浩
津 政幹
辻 洋一
土屋 治男
坪井 淳夫
寺田 英明
遠山 史久
山登 信之
富田 博之
鳥居 順子
■な 夕紀夫
■中 忠
中西 哲人
中村 俊彦
中村 元嗣
中村 永洋
西岡 直実
西川 晶
西澤 宏志
西村 淑子
西村 淳夫
西村 真
野口 信弘
野口 誠
野口 真美
野村 一成
野村 真澄
■は
*橋爪 千鶴子
橋本 一史
橋本 巨紘
橋本 美穂
長谷川 京介
長谷川 博
波多 美沙
服部 ミサエ
服部 詢子
早川 明男
林 博子
林 雄二
林 和代
林原 和宏
原 ひとみ
原 岳士
原田 佐保子
春川 京子
半田 正道

坂東 泰子
日置 誠實
樋口 由美
樋口 恵子
肥後 久義
久富 昭枝
平林 和文
廣瀬 泰直
廣中 茂実
深沢 直枝
古市 英雄
■堀 浩史
■ま 泉光郎
前田 正司
牧 明
牧田 秀樹
■桐 一
■松 聡
■松 泰之
■松 繁
■松 成
■松 雅
■丸 雅子
丸山 淳
三浦 敏也
水谷 哲男
水谷 美沙
水野 晴彦
水宮 克好
宮岡 悦子
宮川 昇
宮崎 昇誠
宮寺 正子
村上 善弘
村瀬 千恵子
室田 敦
本橋 敦美
森 里ま
森 志和
森島 篤
森本 篤子
■諸 暁子
■や 宣幸
柳沼 康男
柳沼 勝一
安富 雅一
柳 友幸
柳 和代
柳本 隆幸
矢野 裕兒
山内 裕一郎
山縣 政継
山口 世知羅
山口 昌克
山崎 美生子

山田 義則
山本 博
湯川 俊明
横川 尚洋
橘 秀修
吉田 淳
吉田 美紀
吉富 民子
吉野 純子
吉見 幸子
米田 徹光
米田

米谷 克幸
■わ 矩弘
若槻 不二夫
渡邊 朋子
C.S.
N.S.
匿名 105名
■栄誉会員
ヨーコ・ナガエ
チェスキーナ

遺贈・相続ご寄付(敬称略)

鈴木 久子 牧野 季子
竹内 容子 岡橋 純男
齋藤公治メモリアル基金 岡橋 孜

法人定期会員

【定期演奏会】
東京コンテナ工業株式会社



特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくださった方には、入場券代はお返し致しません。特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただきます。当団主催公演の入場券を5%引き(TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱いのみ)にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

安齋 優 樋口 由美
栗田 清司 堀田 有幸
東 由美子 匿名 17名
(敬称略)

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター
044-520-1511へお電話をお願いします。



©N Ikegami

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのため不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
～29,999円

フレンズ3

年額3万円
～49,999円

フレンズ5

年額5万円
～99,999円

サークル10

年額10万円
～249,999円

サークル25

年額25万円
～499,999円

サークル50

年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円～

シルバー

年額30万円～

ゴールド

年額50万円～

ダイヤモンド

年額100万円～

プラチナ

年額1000万円～

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

主催公演へご案内

ゲネプロ見学会(年3回以上)

リハーサル見学会(年3回以上)

ご芳名掲載

主催公演チケット先行予約*1

公演チケットをご優待価格にてご案内*2

法人会員

サークル
会員

フレンズ会員

フレンズ5

フレンズ3

フレンズ1

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分*3について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。*

*但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ TEL 044-520-1518

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians

楽団員紹介

鋭敏、多彩なホルニスト

加藤 智浩

Tomohiro Kato

[ホルン奏者]2020年3月入団

趣味: ショッピング、ミュージカルやライブを観に行くこと、
美味しいものを食べること



©N.Ikegami

とにかく「演奏家になりたい」

家にアップライトピアノがあり、母がたまに簡単な曲を弾いてくれていた年長の頃にピアノを始め、何となく“音楽”が好きでした。小学4年生の冬に吹奏楽部に入りフルートを希望するも、友人の強い押しがありクラリネットを吹くことになったのですが、どうしてもフルートが吹きたくて親に頼み込んで買ってもらい、家ではフルートを吹いて遊んでいました。この頃には漠然と「将来は演奏家として生きていきたい」と思っていました。楽器に触れたときに「これだ…!」という感覚があり、とにかく“演奏家”になりたいと。正直楽器は何でもよかったです(笑)。

その後、6年生になる前に、自分の希望でユーフォニウムにパート移動するも、3か月後には「低音楽器が足りない!」とバリトン・サクソスに移動させられるなど、結果的に様々な楽器を経験しました。中学校でも吹奏楽部に入部し、満を持してフルートに立候補しましたが、いざ私が希望すると「既にフルートが吹ける人と一緒にやるのは……」と、誰もフルートをやりたがらない。結果「やってみたいと思っていたので、ホルンにします……」と誰も希望していなかったホルンに立候補しました。これが私とホルンの出会いです。最初は「1年くらいやったらまた楽器を変えればいいや」と考えていましたが、そんなことが出来るはずもなく、そのままホルンが続けました。

高校でも吹奏楽部に入部し、再びフルート転向のチャンスが訪れますが、結局ホルンに。「ああ、今ここでホルンなら、将来はホルンで演奏家になろう」と、ここで腹を決めました。

早めに起きてお弁当作り

趣味が沢山あります。ショッピング、ミュージカルやライブへ行くなど、アクティブなことも好きですし、ゲームやDVD鑑賞など、インドアなことも好き。特に、美味しいものを食べたり作ることが好きで、リハーサルの日は早めに起きて、朝からお惣菜を作って、お弁当箱に詰めて会場に持ち込んでいます。



インタビュー:事務局

NEWS & TOPICS



「ニコニコ東京交響楽団」会員限定コンテンツを追加！

チャンネル会員の皆さまのサポートで運営している#ニコ響 無料ライブ配信。このたびチャンネル会員限定コンテンツとして、ノット監督指揮《ブラームス：交響曲第3番》を追加いたしました！ご視聴には、ニコニコチャンネル「ニコニコ東京交響楽団」(月額1,100円)への入会が必要です。



NEXT PROGRAM

7/15 (土) 川崎定期演奏会 第92回
14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

16 (日) 第712回 定期演奏会
14:00 サントリーホール

- ：指揮：ジョナサン・ノット
- ：ヴァイオリン：神尾真由子
- ：エルガー：ヴァイオリン協奏曲 口短調
- ：ブラームス：交響曲 第2番

[7/15] ¥9,000 A ¥7,000 B ¥5,000 C ¥4,000 P ¥3,000
[7/16] ¥9,000 A ¥7,000 B ¥6,000 C ¥4,000 D ¥3,000



TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511 (平日10:00 ~ 18:00 / 土日祝休)

8/19 (土) 第713回 定期演奏会
18:00 サントリーホール

20 (日) 新潟定期演奏会 第132回
17:00 “りゅーとぴあ”コンサートホール

- ：指揮：鈴木優人
- ：ソプラノ：中江早希、澤江衣里
- ：テノール：櫻田 亮
- ：合唱指揮：富平恭平 合唱：東響コーラス
- ：メンデルスゾーン：交響曲 第5番「宗教改革」
- ：メンデルスゾーン：交響曲 第2番「讃歌」

[8/19] ¥8,000 A ¥6,000 B ¥5,000 C ¥4,000
[8/20] ¥7,500 A ¥6,000 B ¥4,500 C ¥3,000 D ¥2,000



りゅーとぴあチケット専用ダイヤル 025-224-5521 (11:00 ~ 19:00 / 休館日除く)

東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ



公式サイト <https://tokyosymphony.jp>

1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に改称し現在に至る。サントリーホール、ミュゼ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行い、文部大臣賞を含む日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。新国立劇場のレギュラーオーケストラを務めるほか、川崎市や新潟市など行政と提携した演奏会やアウトリーチ、「こども定期演奏会」[0歳からのオーケストラ]等教育プログラム、ウィーン楽友協会をはじめとする海外公演も注目されている。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集め、《サロメ(演奏会形式)》は、毎日新聞クラシックナビ「2022年開催公演ベスト10」第1位、音楽の友誌「コンサート・ベストテン2022」で日本のオーケストラとして最高位に選出された。



©T.Tairadate

Jonathan Nott began his tenure as the 3rd Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 season. The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world, and its Salome in Concert Style was selected as the best Japanese Concert in the "Concert Best Ten 2022" by Ongaku no Tomo magazine, and won the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra' s amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 40 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO' s home and Mozart' s Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 78 concerts in 58 cities since 1976. The Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート
【5組10名の小・中・
高校生無料招待】



NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
【TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION】
1か月550円(税込)



このプログラムは見やすく・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

Tokyo Symphony Orchestra Monthly Concert Brochure
Symphony

Symphony 2023年(令和5年)6月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764
<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミュゼ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト